

【中高生部門】第4回京都文学賞 寸評（二次選考を担当した読者選考委員からの選評の抜粋）

目次（タイトル五十音順）	頁
美しい味.....	1
京都国.....	1
サードニクスの指輪.....	1
朱色の逃走.....	1
ねこの手 わたしの手.....	1
「また、今日と出会えますように」.....	1

<中高生部門>

タイトル	良かったところ	改善した方が良いと感じたところ
美しい味	<ul style="list-style-type: none"> <li>○強烈な出来事を書いているが、あまり触れることのないテーマに敢えて挑んだことを評価したい。</li> <li>○京都にごく普通にありそうな喫茶店、穏やかな時の流れを感じさせるアンティークな喫茶店を想像させ、それに対比して、悠介の衝撃的な告白が描かれるところは、読み手の心を大きく揺さぶることに大変効果的だったと思う。</li> <li>○難しい箇所もなく、コンパクトにまとまっていて読み進めやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイトルと内容がマッチしていないと感じた。「美」に関して様々な触れ方を作中でしているので、違う言葉を使い表すべきと思った。</li> <li>○性の問題が含まれるからこそ、微妙な心の動きを繊細な表現で書くことにも挑戦してほしい。</li> <li>○「美しい」や「美しくない」とは何か、作者なりの考察があるとなお良かった。</li> </ul>
京都国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都人や京都文化のイメージ、偏見について取り上げている。目のつけどころが良いと思う。</li> <li>○描き方が中高生らしく瑞々しい感性によるもので好感が持てた。</li> <li>○京都訪問を通じて、主人公の心情の変化と成長が上手く表現されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイトル「京都国」はどういう意味なのだろうか。本文中に説明が欲しい。</li> <li>○もっと「僕」を深く掘り下げて描いてほしかった。もっとキャラを立てて印象を強くした方が良い。</li> <li>○抽象的な表現については、具体的に表現すると読者に伝わりやすくなる感じた。</li> </ul>
サイドニクスの指輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都の場所が具体的に描かれていた。京都らしい観光地（清水寺など）だけでなく、新京極商店街や糺ノ森などが登場するあたり、作者の体験に基づいていると感じ、好感が持てた。</li> <li>○冥界への入口と言われる六道珍皇寺を物語に用いることで、物語に京都らしさが加わっている。</li> <li>○交通事故で落とすはずだった命が救われ、ハッピーエンドで爽やかな結末にしたところも、若い感性が溢れていて大変良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SFで何でもありではあるが、色々と疑問点が多い。もう少し作者独自の仕掛けがないと読者は納得できないと思う。</li> <li>○全体に言えることだが、登場人物たちがその指定された範囲内で予定通りに行動していると感じた。</li> <li>○誤字脱字、漢字（常用漢字）で表記すべきところがひらがなになっている、口語的な表現が地の文になっているといった箇所が複数見受けられた。</li> </ul>
朱色の逃走	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去と現在を織り交ぜながら、謎解きの要素もあり、ハッピーエンドに向かって一貫とした筋書きが良い。</li> <li>○冒頭より、音・光・色の表現をもって、生き生きとした描写だった。汗や蝉で一気に夏らしさが伝わった。</li> <li>○セリフが大部分を占めているが、違和感なくテンポよく読み進められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイトルと物語が直結していないように感じた。</li> <li>○景観面などから、大規模施策を京都の街づくりで行っているのが疑問に感じた。</li> <li>○ドラマチックな物語の展開で、キャラクターが立っていて面白みがあるが、同時に物語が都合良く展開しすぎるために、作られた寄せ集めという印象を持ってしまった。</li> </ul>
ねこの手わたしの手	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人に頼るのもよいのだと主人公が気付くという着眼点が良い。日常生活の中で、伝えたいことが上手く表現されている成長物語だと感じた。</li> <li>○比喩表現が非常に上手くて、ポップで印象深い描写が楽しかった。</li> <li>○読みやすいボリュームであった。セリフのある部分はリズム感がある。情景が浮かぶよう読みやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タイトルはもうひとひねりあっても良いかもしれない。</li> <li>○最後、主人公があっさり学校に行くので、辛さを表現するエピソードをもう1つ入れてほしかった。</li> <li>○「わたしの手」のエピソードもあると作品の統一感が出ると思う。</li> </ul>
「また、今日も出会えますように」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読者を内に引き入れて京都観光を一緒に楽しんでいる感覚があった。ちゃんと調べて書いていることに好感が持てる。</li> <li>○終わり近くになり、結果を呈示しないで、読者にバトン渡し、自由に紡いでいく終わりのない物語とすることで、余韻の残る終わり方だと感じた。</li> <li>○作者から語り掛ける文章の流れが心地よく感じた。語っていくと、伝えたいことから少し話がそれていく点が随所に見られ、そのことが、多感で多様な価値観の上に乗って生きている中学2年生の姿をリアルに描写していると思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明と気持ちの描写の割合が多く、アクションが少ないので、メリハリがなかった。</li> <li>○設定がいまひとつ理解できなかった。</li> <li>○「旅ノート」を誰が書いたのか、何を伝えたかったのかが、はっきり伝わってこない。</li> </ul>